

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K03389

研究課題名(和文)日本の精神分析史の構築—古澤平作の遺品調査を通して—

研究課題名(英文)Constructing a History of Psychoanalysis in Japan: From the Survey of Heisaku Kosawa's Relics

研究代表者

西 見奈子(Nishi, Minako)

京都大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：10435365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は古澤平作の遺品調査を通して日本の精神分析史の構築を目指すものであったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、計画を変更し、文献調査を通して草創期の精神分析家の日本の独自性を掘り起こすとともに日本における精神分析史研究の定着を通して、日本の精神分析史の構築を目指した。具体的には古澤平作の教育相談活動や代表的概念の成立過程をまとめ、現代における意義を論じた。さらに2021年より「精神分析史と人文科学」シンポジウムを立ち上げ、ウェブサイト(<https://hp.educ.kyoto-u.ac.jp/>)を作成し、一般向けの対談やシンポジウムの動画配信を公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における精神分析史の研究は少なく、自国の歴史さえ海外の研究者によって論じられている状況であったが、本研究を通して、古澤平作の初期の教育相談活動、阿闍世コンプレックスの成立過程、さらに土居健郎の近代性との関連など、草創期の日本の精神分析史の一部を明らかにすることができた。さらに日本の精神分析の研究者を一堂に介したシンポジウムの企画、開催、さらにウェブサイトの開設は、日本における精神分析史研究の定着、発展に寄与するものになったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to construct a history of psychoanalysis in Japan through a survey of Heisaku Kosawa's Relics. However, due to the impact of Covid-19, we had to change our plans. Instead, we aimed to achieve the same goal by uncovering the uniqueness of Japan's pioneer psychoanalysts through a literature survey and by disseminating research on the history of psychoanalysis in Japan.

As a specific study, we summarized Heisaku Kosawa's educational counseling activities and the process of establishing the concept of the Ajase Complex, and discussed its significance in our time. Furthermore, starting in 2021, the symposium "History of Psychoanalysis and the Humanities" was held and its website (<https://hp.educ.kyoto-u.ac.jp/>) was opened. The website published dialogues between researchers in the history of psychoanalysis and video streaming of the symposium.

研究分野：臨床心理学

キーワード：精神分析 精神分析史 臨床心理学史

1. 研究開始当初の背景

19世紀末にフロイトによって創始された精神分析は、臨床心理学の発展にも大きな影響を与えてきた。日本は、精神分析がかなり早い時期に輸入された国のひとつで、現在分かっている最初の紹介は1902年の森林太郎(森鷗外)まで遡る。すなわち日本には約120年の精神分析の歴史が存在する。近年、精神分析界での中国の勢いを背景に、アジアにおける精神分析史への関心が高まっており、この10年ほど海外の研究者による日本を含めたアジアの精神分析史についての論文や著作の出版が相次いでいる(例えば、Akhtar, S., 2009; Alf Gerlach, A., Hooke, M., & Varvin, S., 2013; Busiol, D., 2018.)。しかし、そこには日本の精神分析に関する様々な誤解も散見される(西, 2019)。また、日本の心理臨床の発展においても精神分析は大きな役割を果たしてきたもので、その歴史を知ることは現在の心理臨床が抱える問題を考える上で欠かせないものである。しかしながら、日本での精神分析史の研究は立ち遅れており、研究は数えるほどしか存在しておらず(例えば、妙木・安斎, 2005; 曾根, 2008; 北山, 2011)速やかな発信が求められている状況にある。

現在の日本の精神分析の礎を築いたのは、古澤平作(1897年-1968年)である。1932年に欧州に留学しフロイトと面会して、精神分析の訓練を受けた。帰国後は、日本に精神分析を広めるために邁進し、日本精神学会を創設し、日本精神分析協会の会長も歴任した。彼が提唱した「阿闍世コンプレックス」は、日本独自の精神分析理論として国内外でよく知られ、臨床心理学の研究でも用いられている。さらに古澤から教育分析や指導を受けたものの中には、土居健郎や小此木啓吾をはじめ、臨床動作法を創始した成瀬悟策や児童相談の霜田静志など、日本の臨床心理学の発展に大きく影響を与えた人物が多数いたことが知られている。そこで、本研究では、古澤平作の遺品調査を通して、日本の精神分析史を新たに構築することを目指すものである。

2. 研究の目的

日本の精神分析史の構築のために具体的には、以下の2点を目的とした。

(1) 日本独自の精神分析理論の成立過程を明らかにする

日本独自の精神分析理論には、土居健郎の「甘え」や北山修の「見るなの禁止」があるが、これらの出発点となるのが古澤の「阿闍世コンプレックス」である。しかし、阿闍世コンプレックスは後に弟子の小此木啓吾が大幅に改変したと言われており、その変遷を辿ることで、阿闍世コンプレックス概念の成立過程を明らかにする。

(2) 草創期における日本の精神分析臨床の実態を明らかにする

古澤がおこなった症例は留学前の二例と、留学後の手紙による通信分析の一例しか公表されていない。一方、患者側からの報告としては、精神分析家の前田重治による『自由連想法覚え書：古澤平作博士による精神分析』(1984)や教育学者の霜田静志らの報告『自己分析を語る』(1980)、Harding, C (2012)による瀬戸内寂聴のインタビューなどがある。先に示した通り、日本の精神分析、心理臨床の分野において古澤から指導を受けたものは少なくない。それは脈々と受け継がれ、私たちが気づかぬところで、現在の日本の精神分析や心理臨床に息づいていることだろう。古澤がおこなっていた精神分析臨床の実態を明らかにし、日本の精神分析、心理臨床の流れを読み解くことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、基本的に文献研究と資料調査によっておこなうものである。資料調査においては、資料についての名称、内容、キーワードを記した調書を作成し、資料を分類した目録を作成する。まず、日本の精神分析史について、すでに公開されている文献、資料について整理し、総括する。さらに古澤の未発表の資料について、内容を精査し、日本精神分析史の再考となる発見や日本独自の精神分析理論の成立過程に関する新たな知見を検討する。

4. 研究成果

当初、本研究は古澤平作の遺品調査を通して、日本の精神分析史を新たに構築することを目指すものであった。しかしながら、予測していなかった新型コロナウイルス感染症拡大のため、遺品調査の多くは計画の変更を余儀なくされた。そこで、本研究では、(1)の日本独自の精神分析理論の成立過程を明らかにすることに重きを置き、草創期の精神分析家の日本の独自性を掘り起こすとともに日本における精神分析史研究の定着を通して、当初の目的であった日本の精神分析史の構築を目指すことにした。本研究の具体的な成果を以下に示す。

(1) 日本独自の精神分析理論の成立過程について

戦後の教育相談にみる日本の精神分析理論とその影響

古澤平作が戦後間もない頃に雑誌「小学一年生」に連載していた教育相談の連載を始点として、古澤自身の母なるものへの希求と、古澤の分析を受けた霜田静志(1890-1973)の記録から人間におけるデモニッシュな性質と教育との関係について論じた。研究成果については、2020年10月17日に、教育哲学会第63回大会研究討議「精神分析と教育 教育理論としてのフロイト思想」において「精神分析から教育を考える-古澤平作による雑誌「小学一年生」の教育相談をもとに-」として発表をおこなった。発表者としては他に Deborah P. Britzman(York University)や下司晶(日本大学)が登壇し、西平直(京都大学)指定討論をおこない、活発な議論が交わされた。そこにある日本独自の考えとそれらが戦後の子育てに与えた影響について考察を加えた。発表内容については、教育哲学研究(123号, pp. 13-22)とE-Journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan(Vol. 6, pp. 44-54)に掲載された。

阿闍世コンプレックス概念の変遷

古澤平作がフロイトの最も著名な概念、エディプスコンプレックスになぞらえて名付けた阿闍世コンプレックスを取り上げ、その変遷を検討した。研究成果については、2020年12月6日には、日本精神分析協会第38回年次大会において、「日本の精神分析における女性像 阿闍世コンプレックスに焦点を当てて」を発表した。特に古澤平作が提示した概念を小此木啓吾がどのように発展させたのかを示し、阿闍世コンプレックス概念を現代的にはどのように再考できるのかを考察した。この発表をもとにした論考は『精神分析にとって女とは何か』に収録した。

日本の精神分析と個人主義の関連

世界でも広く用いられている土居健郎の「甘え」理論において、土居が近代的自己の確立を目指し、甘えの世界から脱却して、自立し、自己を確立することを目指されるべき心的状態として捉えていたことを取り上げ、日本の精神分析における「個別に生きる」ことについて検討した。特に古澤平作の「とろかし」を弟子であった土居健郎がどのように批判的に捉えていたかに着目し、考察した。結果については、第一回「精神分析史と人文科学」シンポジウム(2021年9月7日)並びに第67回日本精神分析学会大会(2021年11月7日)のシンポジウム『『日本的』とは何か-精神分析概念の創造-』(指定討論)にて発表した。

(2) 草創期における日本の精神分析臨床の実態

新型コロナウイルス感染症拡大のため、予定されていた遺品調査の多くが断念せざるを得ない状況であったが、最終年度に一部を再開することが可能となった。そこで3名の患者についての手紙や通信分析の記録等の資料を精査検討し、第一回日本精神分析史研究会において、戦後の日本の精神分析の実際について発表をおこなった。

(3) 日本で精神分析史研究を定着させるための場の創設

新型コロナウイルス感染症拡大による計画変更に伴い、日本における精神分析史研究の定着のため、場の創設を試みた。日本における精神分析史研究は、これまで様々な専門分野でおこなわれ、十分な繋がりを持ってこなかった。日本の精神分析史の構築、また今後の当分野の研究の発展のためには、それらを統合する場が不可欠だと考え、精神分析史に関心を持つ人々が、多様な領域から広く集う場所になるための場を以下のように創設した。

まず、日本の精神分析の特徴を明らかにすることを目的に、精神分析家の松木邦裕名誉教授と哲学者の西平直名誉教授を招致し、対談イベントを企画して、2021年8月21日と2022年7月31日に実施し、好評を博した。

さらに京都大学の松本卓也准教授とともにシンポジウムを企画し、2021年9月7日に第一回「精神分析史と人文科学」シンポジウムを開催した。シンポジストには西見奈子、松本卓也准教授に加え、成蹊大学の遠藤不比人教授、中央大学の下司晶教授が招待された。さらに静岡文化芸術大学の中田健太郎講師と同志社大学の藤井あゆみ講師が指定討論をおこなった。その際、ウェブサイト(<https://hp.educ.kyoto-u.ac.jp/>)を作成し、対談等のコンテンツとともにシンポジウムの様子を後日動画配信した。参加者は214名で盛況であった。第二回「精神分析史と人文科学」シンポジウムは、2022年9月19日に開催した。「精神分析史の多様性」をテーマとし、千葉雅也教授のご講演『創造的なものとしての神経症あるいは神経質:精神分析、ドゥルーズ、森田正馬』が実施され、また、シンポジウムでは、シンポジストには上尾真道准教授、鈴木菜実子准教授、ニコラ・タジャン准教授、指定討論には池田暁史教授、遠藤不比人教授といった日本での代表的な精神分析史の研究者たちを招致した。さらにホームページでは遠藤不比人教授と藤井あゆみ講師による対談のテキスト公開や動画配信をおこない、日本における精神分析史の啓蒙に努めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 西 見奈子 | 4. 巻 67(1) |
| 2. 論文標題 学問は永遠の事業 口唇期退行論をめぐる小考 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 精神分析研究 | 6. 最初と最後の頁 64-68 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 鈴木智美・妙木浩之・高野晶・岡田暁宜・池田政俊・藤内栄太・西 見奈子 | 4. 巻 66(3) |
| 2. 論文標題 シンポジウム討論記録 「日本的」とは何か：精神分析概念の創造 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 精神分析研究 | 6. 最初と最後の頁 229-246 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 江口 重幸, 黒江 ゆり子, 皆藤 章, 西 見奈子, 山本 力, 青木 紀久代, 西井 克泰 | 4. 巻 40 (5) |
| 2. 論文標題 「心理臨床学研究」のオリジナリティとは：第41回大会 学会誌編集委員会企画シンポジウム | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 心理臨床学研究 | 6. 最初と最後の頁 464-480 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 西 見奈子 | 4. 巻 48(5) |
| 2. 論文標題 精神分析から見たマインドフルネス | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 精神療法 | 6. 最初と最後の頁 648-650 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 西 見奈子 | 4. 巻 22巻5号 |
| 2. 論文標題 投影同一化について | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 臨床心理学 | 6. 最初と最後の頁 571-574 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 西 見奈子, 高橋 靖恵, 上田 裕也, 西岡 小春, 浦田 晃正, 星野 修一 | 4. 巻 47 |
| 2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が心理臨床業務に与えた影響 : 緊急事態宣言直後のアンケート調査から (特集 コロナ[COVID-19]禍のメンタルヘルス) -- (緊急事態宣言に対する精神療法家の対応) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 精神療法 | 6. 最初と最後の頁 178-184 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 西 見奈子 | 4. 巻 123 |
| 2. 論文標題 精神分析から教育を考える : 古澤平作による雑誌『小学一年生』の教育相談をもとに (研究討議 精神分析と教育 : 教育理論としてのフロイト思想) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 教育哲学研究 | 6. 最初と最後の頁 13-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Minako Nishi | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 Education from the Perspective of Psychoanalysis: Based on Heisaku Kosawa 's Educational Consultations Documented in the Magazine Shogaku Ichinensei (First Graders) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 E-Journal of Philosophy of Education: International Yearbook of the Philosophy of Education Society of Japan | 6. 最初と最後の頁 44-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 西 見奈子 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 日本の精神分析における女性論の紹介と受け入れ | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 心理臨床スーパービジョン学 | 6. 最初と最後の頁 8-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件)

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 シンポジウム「精神分析と空間」(指定討論) |
| 3. 学会等名 日本精神分析協会第40回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 講演と討論: What can be achieved in once weekly psychoanalytic psychotherapy? (指定討論) |
| 3. 学会等名 精神分析学会第68回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 学会誌編集委員会企画シンポジウム「心理臨床学研究のオリジナリティ」(指定討論) |
| 3. 学会等名 日本心理臨床学会第41回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 アムステルダムショックまでの精神分析の実際：面接構造と訓練制度を中心に |
| 3. 学会等名 第一回日本精神分析史研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 投影同一化から考える相互交流 |
| 3. 学会等名 日本精神分析協会第9回LECTUREDAY |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西 見奈子 (2021,11.7) |
| 2. 発表標題 シンポジウム「日本的」とは何か - 精神分析概念の創造 - (指定討論) |
| 3. 学会等名 第67回日本精神分析学会大会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 日本の精神分析史の可能性 - 個別に生きることを巡って - |
| 3. 学会等名 第一回精神分析史と人文科学シンポジウム |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西見奈子 |
| 2. 発表標題 ポスト・コロナ時代の臨床心理学に向けて（ミニレクチャー「コロナ禍における心理臨床のありかた」） |
| 3. 学会等名 日本心理臨床学会第39回大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 日本の精神分析における女性性を考える． |
| 3. 学会等名 現代精神分析研究会オンラインシンポジウム（『女性性：わたしにとって、わたしたちにとって』）（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 精神分析から教育を考える - 古澤平作による雑誌「小学1年生」の教育相談をもとに - |
| 3. 学会等名 教育哲学会第63回大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西 見奈子 |
| 2. 発表標題 日本の精神分析における女性像 阿闍世コンプレックスに焦点を当てて |
| 3. 学会等名 日本精神分析協会第38回年次大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 著者名 河出書房新社 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 河出書房新社 | 5. 総ページ数 282 |
| 3. 書名 「心」のお仕事 | |

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 西 見奈子編 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 福村出版 | 5. 総ページ数 232 |
| 3. 書名 精神分析にとって女とは何か | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 高橋靖恵、高橋昇、日下紀子、西 見奈子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 金子書房 | 5. 総ページ数 146 |
| 3. 書名 ライフステージを臨床的に理解する心理アセスメント | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|